

猛暑による食欲減退と産卵低下、秋への影響

この夏の猛暑で鶏の食欲も落ち、産卵も減りました。エサやりの仕事が楽で助かります。なんて言ってるばかりじゃないってば。

下の写真は、暑さにあえいでいる鶏たちの姿です。犬などと同じように、鶏の体表には汗腺がありません。なので、暑いときには口を開けてハァハァと、いわゆる開口呼吸をしています。

あしたから9月。ここ数日は涼しい日が続いています。鶏たちの食欲も回復し、産卵も上向いてはきました。が、じつは夏の食欲低下のダメージは秋になってから、より影響をみせてくるというのが例年のようすなもので、安心はできません。



どっちも英語では「sweet pepper」

ピーマンとシシトウ、いところ同士みたいな野菜について調べました。2つの野菜は、表のようにカロリーと主成分構成や含有量が微妙に違っている別品目ではあります。ただし英語で言うと、どちらも「sweet pepper」だそうです。訳せば「甘とう

がらし」ともなりますが、これまた日本では別な野菜です。

“言葉と文化”という視点からすると、トウガラシ類については英語圏より日本のほうが暮らしに根付いているということになるのでしょうか。だけど、漢字で書くと「唐辛子」

だし、子どものころは「ナンバン」(南蛮)と呼んでいたし…う〜む。

100g当たり	シシトウ	ピーマン
カロリー kcal	27	22
カリウム mg	340	190
マグネシウム mg	-	11
β-カロテン μg	530	400
ナイアシン mg	1.4	-
ビタミンB6 mg	0.39	-
ビタミンC mg	57	76
ビタミンE mg	-	0.8

品目横断的経営安定対策の見直しと、多様な担い手の育成を求める陳情

北茨城市議会議員
志賀 英之 氏

2007年9月27日

陳情団体 県北農民センター
代表者 橋本 真一
茨城県日立市十三町1980-008
0294-39-4597

＜陳情の趣旨＞

本議員連署では、中山農家と政策の格差から各品目横断的経営安定対策に対して、農家は「ノー」の意思を明確に示しました。それにもあわせて、政府・与党は「説明が見られなかった」などと言いきり、即対策を推進しようとしています。

農家は、高齢化、後継者が不足、耕作放棄地も広がっています。こうした困難の穴を埋めるには、輸入農産物の急増による、半強制的な輸入による農産物価格の低迷があります。しかし品目横断的対策は、その輸入農産物に前倒しに中山農家を切り替えるもので、困難を解決するどころか、農家の壊滅にさらに加速させるものです。同対策の抜本的な見直しを求めます。

品目横断的対策は、原則4ヘクタール以上(北茨城が1ヘクタール以上)の認定農家が50ヘクタール以上の専業生産面積を有しなくてはなりません。今年度の認定申請状況が明らかに公表されましたが、昨年年度の耕作放棄地と比較したカバー率は、米50%、大豆27%、小麦2%で、いずれも100%を割っており、とりわけ小麦は認定の1ヘクタールしかないという深刻な状況です。

ハイオク燃料費による値上げや労務・安心を求むる世論の高まりで、国産の小麦、大豆の需要が落ちている一方で、品目横断的対策では急増する輸入品に追いつけません。また現行の認定所得基準維持対策(臨時)が廃止されたことで、次年度の臨時対策は、輸入品や大豆の急増による需要の急増と見通しできず、十分な農産物の供給を確保できません。

品目横断的対策を推進する過程は、輸入を規制するとともに広範な農産物の価格保護政策を推進・充実させること、そして小規模農家や高齢者、新規就農農家など、多様な農家の担い手を育成していくことです。

以上の趣旨から、下記の事項について意見書を、政府および関係機関に提出して下さるようお願いいたします。

＜陳情事項＞

- 一、品目横断的対策を見直し、農家をやりがい、続けたい人へすべて対応すること
- 一、農産物の輸入を規制し、価格保護政策を推進・充実させること
- 一、多様な担い手の育成を促し、多様な農産物の供給を確保すること



← 陳情書
↓ 常陸太田市で

規模で選別する農政の見直しと多様な担い手の育成を求め、農民連が市町村に陳情書提出

県北農民センターとして、北茨城や日立など県北の市町村に「品目横断的経営安定対策の見直しと多様な担い手の育成を求める陳情」を、提出しました。

で、写真右端が、前号などで紹介した末期ガン患者ことNさんです。「最後の力をふりしぼって、県北地域の農業を守るために奮闘!と紹介しろよ」だと。はいはい。